

読売新聞 きょう（9月23日）のイチ押し

一面・三面など 政府・日銀が24年ぶり円買い介入

政府・日本銀行は急激な円安を食い止めるため、24年3か月ぶりに円買い・ドル売りの為替介入に踏み切りました。円安を修正する市場介入は1998年以来。外国為替市場では1ドル=145円台後半だった円相場が介入後、一時140円台まで円高に進みました。ただ、日米の金融政策の違いを背景に進行する円安・ドル高の流れが転換するかどうかは見通せません。

- ★鈴木財務相は記者会見し、「足元の為替市場では、急速で一方向的な動きが見られる。投機による過度な変動が繰り返されることは、決して見過ごすことができない」と介入を実施した理由を説明しました。
- ★政府・日銀による為替介入は、政府が決定し、日銀が市場で通貨を売り買います。過度な円安を修正する場合には、政府が保有する外貨準備のドル資金を使い、市場で円を買います。市場に出回る円を減らすことで、他通貨に対する円の価値を高める狙いがあります。

一面（二面） リュウグウ 46億年前の水 海の起源か

日本の探査機はやぶさ2が地球に持ち帰った小惑星リュウグウの試料の中に約46億年前の「太古の水」が液体の状態で存在していたことがわかったと、国際研究チームが発表しました。小惑星が地球に降り注いで海や生命の材料をもたらしたとする説を補強する成果といえます。

チームは試料1粒の内部を特殊な方法で分析。鉱物内の微小な空洞に液体の水が入っていることを5か所で確認しました。リュウグウはもともと、直径約100キロメートルの「母天体」の一部だったされています。母天体は約46億年前に太陽系が生まれてから間もなく誕生。その数百万年後、内部に岩石とほぼ同じくらい大量の水を含んでいたと推定しました。

他紙と比べて

7月の世界陸上男子100メートルで、世界大会で日本選手として90年ぶりに決勝へ進んだサニブラウン・ハキーム選手が本紙のインタビューに応じ、充実したシーズンを振り返りました。米国でトレーニングを続けるサニブラウン選手は「9秒90はまだ遠いかなと感じているが、以外とポンと出るタイムだと思う」とさらなる飛躍のために、9秒90を目指す決意を語りました。スポーツ面で詳しく伝えています。